

四季

—志木自然報告—

Shiki Seasonal Nature Reports 2018

今回は、本校用務員さんである矢澤さんにご寄稿いただきました。用務員さんは、みなさんが安全で気持ち良く学校生活を送るのに必要な校内環境整備をして下さっています。そのため、本校敷地内のことは知り尽くしています。

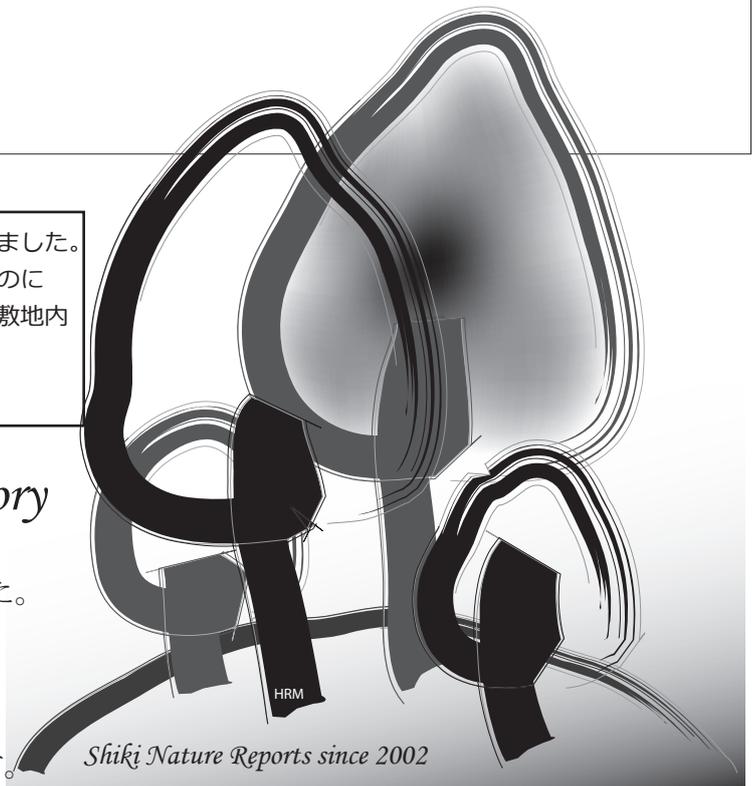
また、矢澤さんは本年度末をもってご退職となります。

四季（志木）の森

Cover Story

約10年余、四季（志木）の森を見てきました。

志木の森は、構内に野火止用水路の跡が走り竹林や原生林が残り、欒や黒松の大木をはじめ数多くの樹木や草花が存在し、動植物を身近に感じることができ、自然観察会で部外の方々にも案内していることはご承知の通りです。手付かずの樹林も良いが、手の入った里山的風景もと、了承を得て過度にならないよう竹林と普通棟及び理科棟北側等の林に手を入れてみました。結果、今まで見られなかった草花や野鳥が散見されるようにもなりました。



志木の春は、露の臺が芽を出し木々や草花が萌え、筍、枇杷に茗荷、そして秋には柿、銀杏に胡桃と素晴らしい食の移ろいを楽しむことができます。

食べ物が先行しましたが、体育館南側の芝生内や農園で初夏に咲く「ネジ花」は雑草と一緒に小鉢に植えると可愛らしさと清涼感があるラン科のネジバナ属で、「振摺」（モジズリ）とも言うそうです。

私が構内で推薦する花は、桜の花が咲く頃、理科棟北側斜路の沿道に咲く「筆竜胆」です。小柄ながら凛と立つ淡い紫の花には気品さえあります。一般的に竜胆の花期は秋ですが、筆竜胆のほかにも何種類かは春に開花するものがあるそうで、根には薬効成分があり、苦味は熊の胆よりも強いので竜に昇格し、竜胆になったという由来があるそうです。また、花言葉は「正義感、誠実、高貴」などで正義感や高貴さに欠ける私はそこに惹かれるのかもしれませんが。

そして晩夏の今、史跡でもある野火止用水路跡の緑のトンネルを歩き、先人達の足跡を振り返ってみることも一興と思われれます。自然豊かな環境がゆえに、倒木や落下木等の危険が多々あり、また雀蜂や害虫等の被害も多分にありそうなものですが、幸いにも聞いておりません。

このちょっと危険で魅惑な森に遊び癒され、自然の恵みを享受できたことは良き思い出であり私の無形財産です。

【私の尊敬する人】

共に疲労困憊し行き詰まって限界に達した時、人の本当の性格が現われます。そんな時、他人を思いやる心や手を差し伸べる気力と体力がある人が信頼でき、尊敬できる人だと思います。

これは全ての事に言えると思います。私は、無理をしないで少しだけ努力します。

用務員 矢澤光泰

前号で「おそらく8月下旬くらいから台風が東日本にも複数襲来するのではないかと」予測しました。その原因として、今年は太平洋高気圧が北に偏っていることを挙げましたが、7月、8月を通して北偏していました。また台風の発生が例年になくハイペースで、7月に6個（1つは6月下旬発生、7月に発達）、8月に9個（1つは8月下旬に発生、9月に発達）と、この2ヶ月で15個も発生・発達しました。

もう少し統計の話をしますと、この15個の台風のうち、日本列島に上陸した台風が4個（12号、15号、20号、21号）、接近した台風が7個あり、接近した台風のうち特に13号と19号は上陸はしなかったもののかなり接近しました。

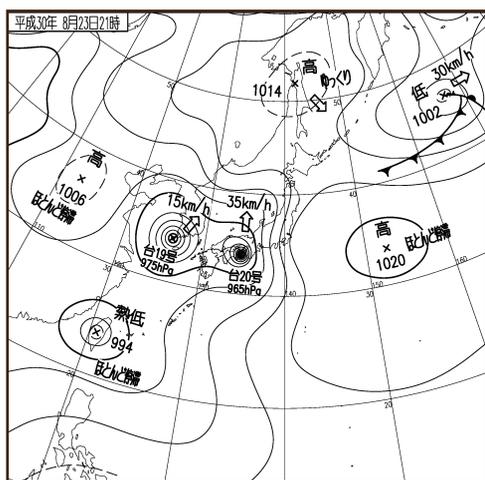
表は過去5年間の台風の発生数（左欄）、8月までの発生数（右欄）です。今年の台風の数はいずれの年よりも多いですし、秋の台風シーズンでもっと数が増えそうです。過去30年の統計では9月、10月は7月より多く台風が発生します。ちなみに過去をさかのぼると、発生数では1967年の39個、上陸数では2004年の10個が最高記録になっています。

表 台風の発生数(単位[個])		
年	年間	8月まで
2018	?	21
2017	27	16
2016	26	12
2015	27	16
2014	23	13
2013	31	17

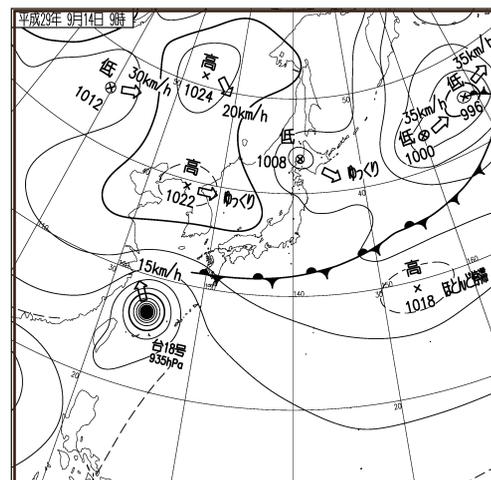
次は進路です。私の予測では東日本にも複数襲来するとしたのですが、関東地方には13号が千葉県をかすめただけで、これまでのところ上陸はありません。しかし8月下旬に発生した20号と21号は、四国・近畿地方に上陸した後に日本海に抜け、日本海の沿岸を北東に進み東北・北海道地方に大雨と暴風をもたらしました。一方、このころ関東地方では高気圧が張り出し、台風をよせつけず残暑が続きました。というわけで適中したかと言われると微妙ですが半分くらい当たりでしょうか…。

東北地方付近にある秋雨前線もいずれは関東方面に南下してきます。そこに台風が来たときは要注意です。「先行雨量」といって、台風からの暖かく湿った空気を供給された秋雨前線が活発になり大雨になります。そこに台風が接近・上陸すると、もともと雨量が増しているところに台風の大雨が降りますから、「河川の氾濫」、「低地の浸水」「がけ崩れ」など災害につながります。また、秋は潮の干満の変化が大きな時期です。台風が接近すると「吸い上げ効果」と言って中心の気圧の低さから海水を引っ張り上げます。これに大潮の時期（＝新月と満月の頃）が重なれば、満潮の時刻には普段よりも数メートル潮位が上昇します。先日の関西空港の高潮被害は記憶に新しいところです。

9月、10月は台風シーズンで、関東地方は梅雨期を上回り、一年のうちで最も降水量が多い時期です。毎日、天気予報を見て情報を入手し、個人のレベルでも防災に心がけましょう。



← 太平洋高気圧が北に偏った年は台風の襲来が多い。今年の関東地方は高気圧の勢力下であり、台風は四国・近畿地方に上陸した。それでも関東も風は強かった。



昨年の9月14日の天気図。 → 秋雨前線に台風が接近している。今年は何？

(Higuchi)

年中行事の世界 No.03 仲秋の名月① 一宮廷行事編03—

Annual Events

秋の訪れを感じる頃となりました。9月といえば「仲秋の名月」でしょうか。仲秋〔中秋〕（陰暦の秋7月・8月・9月の「真ん中の月」の意）、すなわち陰暦8月15日の夜に見える月のことで、一年で最も美しいとされ、宮廷ではこれを賞して和歌や漢詩、管絃などの催しを行ったことが、平安時代以降の史料に見られるようになります。とはいえ、各種の儀式書（マニュアル本）には正式な年中（恒例）行事としての立項はなく、あくまで臨時行事の位置づけだったようです。

現代の宮中でも、依然として正式な行事ではないものの、その慣習は残っているようで、例えば昭和天皇は月見を行っていたことが知られています。具体的には、御所のお居間前のテラスに置いた小卓の上に花瓶に生けた秋草を飾り、三方に乗せた月見料理（衣かつぎ[里芋の子を皮付きで茹でたもの]・枝豆・ふかした栗・柿・串団子。江戸時代の儀式書『後水尾院当時年中行事』には芋や茄子を供えたことが記されますが、いずれも民間の影響があるのかもしれませんが）を供えて、香淳皇后とともに満月にさしかかろうとする「のぼり月」をご覧になったそうです。「のぼり月」と限定しているの

(次項へ)

慶應志木の森ツアー2018・夏

今年も慶應志木の森ツアーが実施された。このツアーは1996（平成8）年の春から毎年春夏の年2回、3泊4日で開催されており、今年で22年目となる（慶應志木の森の詳細については慶應志木の森20周年記念誌『年輪』～慶應志木の森20年の軌跡～2017年8月発行を読んで欲しい。図書館で閲覧可能）。慶應志木の森の深山・里山は三重県度会郡大紀町にあり、吉田本家山林部当主・塾員である吉田正木氏が日々管理をし、ツアー実施時における現地での活動を支援してくださっている。

今回、この「慶應志木の森ツアー2018夏」（8/20～8/24に実施）に引率の徳竹先生と井澤先生と共に参加した。参加生徒数は22名。初日、ミキモト真珠島と鳥羽水族館を見学したのち、宿泊先である「嘶野」へ。吉田正木氏による「森のセミナー」では、慶應志木の森について詳しくお話いただき、深山・里山で実施する作業の測定方法等についてガイダンスを受けた。樹木の成育調査では、胸高直径を胸高周囲から求め、樹高（傾斜地に生えているという点も重要）は三角関数を用いて測定することなどを教わった。机上で学ぶ数学や日々利用しているスマホが山の作業でも大いに活用できることも知った。角度計測には、スマホの角度アプリを用いる。また、Google mapやGoogle Earthを併用すると深山・里山作業の軌跡が残せる。その軌跡データを利用すれば事前に具体的な作業場所や行程を確認することが出来るので、今後の活動に繋がると良いと思う。そして、作業そのものについても、具体的な作業内容や計測方法について、次に参加する生徒へ事前ガイダンスとして伝えることができると、より充実した活動になるのではないだろうかと感じた。そのために、今回は深山での作業後、作業班ごとに「作業報告シート」を作成することにした。この作業報告シートは今後のためにファイリングしたので、これからも継続してほしい。さらに今回は、20m巻尺と2mの測棒を用いて、100㎡あたりの方角プロット調査も実施した（前回のこの調査記録は2009年）。この100㎡のプロット調査値を基にすれば深山全体、約1haの樹木数や成育状況が分かるということだ。こうした調査方法を用いて現地で実際に自分たちで作業したことは、私自身、大変貴重な経験であった。また、深山・里山ともに、下草にシダなどが繁茂する傾斜地に分け入り、倒木・枯死、目印の消失などで調査対象樹木が必ずあるとも限らない想定外のことが続く山の中での作業。降雨で蒸し暑く、足下はぬかるみ、滑る。事故や怪我なく作業を行うには、生徒も緊張感と自覚を持って臨まなければならない。何をすべきか常に自分で考え行動することを自ずと意識する時間となったはずだ。

また、夜はシカ肉を使ったカレー作り（お米は20合、研ぐだけでも大変！）やイノシシ肉でのBBQに、飯盒炊飯（害獣駆逐として捕獲されたシカやイノシシを食しつつ、食害対策についても学ぶ貴重な体験である）。斧を使っての薪割にキャンプファイヤー。山の作業以外の場面においても、参加した皆さんは自主的に行動し、食事の準備から片づけに至るまでも、実行委員長を中心に最後までやり遂げていた。さすが志木高生。時には、上級生が下級生にアドバイスする場面なども見られた。他にも、釣りやサイクリング、カヌー体験などのレクや熊野古道散策、伊勢神宮参拝など（開催する年によって内容は多少異なる）もあるこのツアーでは、林業・自然体験を通して日常生活では得難い経験と学びの機会が詰まった時間を過ごすことが出来る。

塾内の一貫教育校の中で“学校名”のついた山を持つのは本校だけであり、年2回の慶應志木の森ツアーに参加出来るのは、志木高生だけである。1996年から20年以上継続してきたこの活動は、参加する人の関わり方でいかなる方向へも向くであろう。だからこそ、今後は、活動の継続だけではなく、生徒自身がツアーの目的と意義を明確に持って参加し、より良い活動として「慶應志木の森ツアー」を繋げ続けて欲しいと思う。

高校生活においては学内外で様々な活動機会がある。ぜひともその一つに、「慶應志木の森ツアーに参加する」という選択肢も入れてほしい。



ここに体をこすりつけるので、土の表面がつるつるしている。

これは里山で見つけたイノシシの「ヌタ場（沼田場）」＝泥浴び場所である。体に泥をこすりつけて、ダニなどの寄生虫や汚れを落とす。次回以降、ここにトレイルカメラを設置すれば、そんなイノシシの様子を録画できるのではないかと期待!!

(Aramaki)

は、「仲秋の名月」と満月の時間が厳密にはずれることがある（国立天文台による）ことによるもので、昭和天皇の場合、満月が「仲秋の名月」の当日未明（つまりは前夜）になる際には前夜に繰り上げて月見され、満月を過ぎた月はお覧にならなかったとされるためです。あるいはこちらにも民間信仰の影響があるのかもしれませんが、あくまで「のぼり月」にこだわられた点、学究肌として知られる昭和天皇らしいエピソードともいえましょう。ちなみに、昭和天皇という、最近新たに晩年期の侍従の日記の存在が明らかになりました（8月23・24日新聞各紙）。小欄でも参照している『昭和天皇実録』が公刊をほぼ終えた一方、新たな史料が増えたことで、今後さらに研究が進むことが期待されます。

さて、今年の「仲秋の名月」は9月24日ですが、国立天文台発表の「暦要項」によると、今回の満月は25日午前11時52分とのこと。ということは、24日夜には昭和天皇流(?)の「のぼり月」の月見ができそうです。さて、天気はどうなるのでしょうか。「仲秋無月」にならないことを、ともに祈りましょう。

(Ikeda)

タンポポの仲間を除き、数は多いのに目立たない(≠認識してもらえない)のがキクの仲間である。その中でちょうどこの時期に花を咲かせるものがある。名前をカントウヨメナ(関東嫁菜 *Aster yomena*)という。校庭のわきで白に近い薄紫の典型的なキクの花(直径3-4cm)を見かけたら『それ』である。若芽や新芽はそのまま食用になる。花と蕾を天ぷらにして食べることもあるらしい。乾燥させた葉には解熱、利尿作用がある。役に立つのに認識してもらえないのだが、当人(?)達は気にすまい。さて、見つけることができるだろうか…。

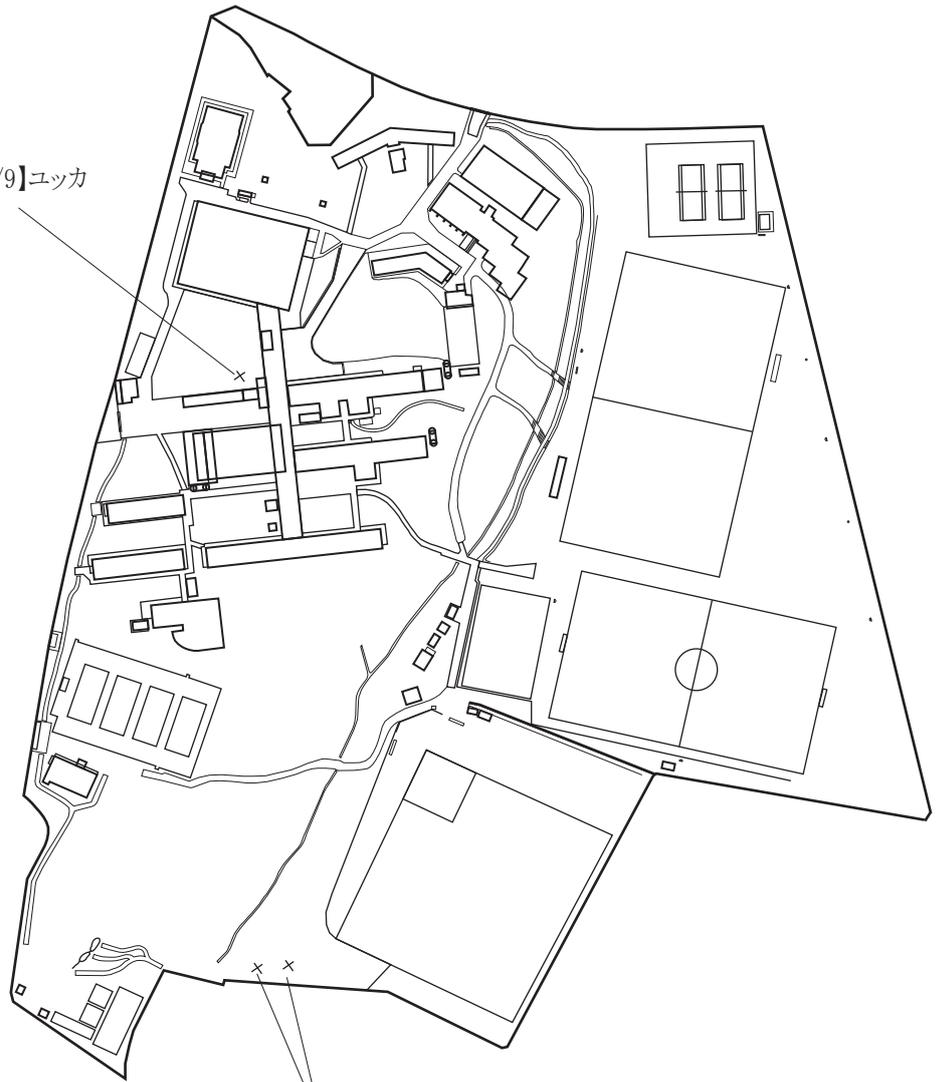
[2018年7月~2018年9月までの開花情報]

Grass

- 27. Jul.2018 ヤブラン
- 7. Aug.2018 ヤマブドウ, キツネノマゴ,
ヒメムカシヨモギ, ヤブミョウガ,
- 24. Aug.2018 ツルボ, ヒナタイノコヅチ, ノブキ,
カントウヨメナ, ヒヨドリジョウゴ
- 9. Sep.2018 ヤブタバコ, ヒメジソ, カナムグラ,
メドハギ,

Wood

[9/9]ユッカ



カントウヨメナ キク科ヨメナ属

[7/27]クサギ

(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	風習・行事	池田 卓也 (Ikeda)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)
	編集・植物画	荒巻 知子 (Aramaki)